

洋書輸入協会会報

VOL. 7

NO. 12

(通巻80号) 昭和48年12月

理事会報告

11月12日(月)

(一) 10月分収支計算予算対比表の検討。

総会及び懇談会の予算は既につかいかっているが、もっとも重要な科目であるから、他の科目から流用して、運営に遺憾ないようにすることとなった。

(二) 49年度経理の見通しについて総務委員会から資料の提出があり、それに基づいて討論。

現在の会費のままでは来年度は運営が困難であるので、会費の値上げが必至の情勢となっている。この問題については、総務委員会から3種類の案が提出されたが、会員の意見を慎重かつ十分に聞き、その上で決定することとなった。本日の理事会の空気としては、20%値上げをせざるをえないのではないかというのが強かった。

(三) 諸情勢について情報交換、討論。

(四) その他。

11月19日(月)

諸情勢について討論。

11月26日(月) 11時～1時 於出版クラブ

(一) 会費値上げについて討論。

11月12日の理事会での討論に引きつづき検討。20%値上げ案について懇談会の席上、会員の意見をきくこととなった。

(二) 諸情勢について意見を交換。

懇談会 11月26日 2時～5時 於出版クラブ

同日の理事会での検討事項につき理事会から報告し、討論した。

席上U.P.S.上杉氏から関税定率法21条問題について

て釈明があり、またU.S.アジアテック山川隆雄氏から、令息の御負傷、御入院につき多数の会員から御配慮のあったことに対し、お礼の言葉があった。

通関委員会だより

東京税関東京外郵便出張所通関協議会主催
新東京国際空港見学記

去る10月24日東京税関の御厚意に依り成田空港見学へ洋書輸入協会通関委員会として参加しました。

ひとことに言っておくがパカデカイの形容につきるの規模ではありません。

新幹線十両分の乗客を一機で運ぶジャンボジェット機の発着幅員化とSST旅客機の就航を考慮の上、政府は昭和41年7月新空港の位置決定と同時に「新東京国際空港位置決定に伴う施策」を閣議決定し、これに伴い昭和42年7月に新東京国際空港建設実施本部が設置され関連事業計画等につき検討が行われた結果、事業費総額約2,641億円(昭和47年3月現在)の計画が策定されました。

新東京国際空港の第一期建設工事は殆ど完了し、航空燃料を千葉港頭から新空港まで運ぶパイプラインの建設のみ遅延しています。

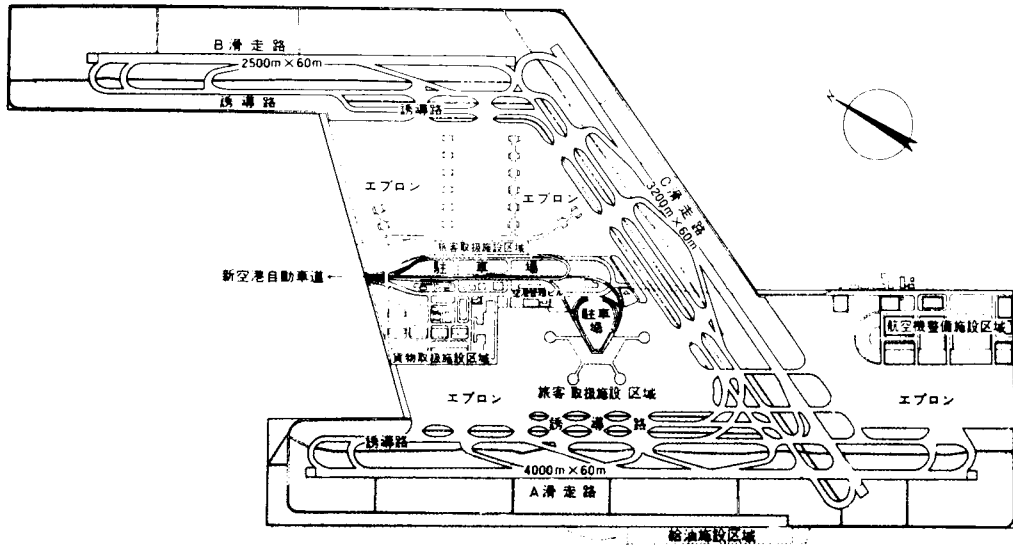
建設工事は昭和45年4月からの空港敷地造成工事の開始と共に本格化し、排水幹線、地盤改良工事に続き、4,000メートル主滑走路、誘道路、エプロンの舗装、空港管理ビル、旅客ターミナルビル、貨物ターミナルビルなどの施設工事、無線、照明等の航空保安施設の整備が進められ完成していました。又、昭和47年11月には運輸省航空局の東京国際対空通信局も羽田から成田空港に移設され空港管理ビル6階

理事会報告	1
通関委員会だより	1
Hachette 訪問記	3
実務シリーズ No. 23	4

ほれ薬と催淫剤	5
Book Review	6
ニュース	7
通関統計	7

新人会員のお知らせ	7
総代理店御案内	7
広告 U.P.S. 社	8

新東京国際空港計画平面図



で業務を開始しています。一方新空港への道路、鉄道関係では新空港自動車道が、すでに成田市まで開通しており、又京成電鉄新空港線も工事を完了していました。

まづは単純な驚異は、直線4,000メートルのB滑走路でありました。中央競馬に日本最長距離ステークスという競馬の種目があり、4,000メートルに優劣を競うレースがありますが、それを直線にした滑走路は南北にのび、南端からみる北端はかすんで見えません。5,000トンの大型ジェット機の飛来を予測し滑走路の厚みは1.5メートルもあるそうです。

“設計上で重視してもらったのは空港のターミナル機能、空港までの地上交通と空の交通との円滑な受渡しを完璧に行う事だった”と公園側の説明に力が入るのも当然、エプロンの飛行機を目で確かめつつすべての手続が可能なお客、入国手続後迷う事なく自分の荷物の所へたどりつける到着客。細心に

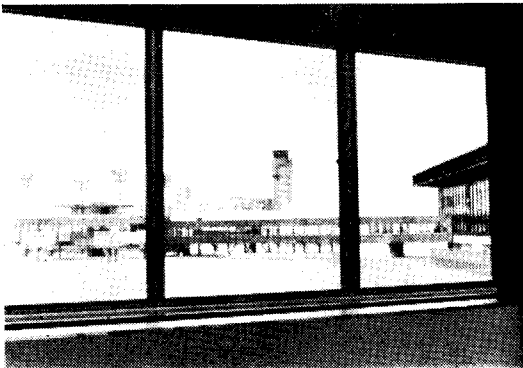
して明快なその種の動線計画と動く歩道、ボーディングブリッジ（塔乗橋）などによる行き届いた機械化輸送が自慢の様でした。写真のそれは平面図にある円型のサテライト（塔乗待合室）であり、北ウイングと南ウイング二基のターミナルから、それぞれ2本ずつフィンガー（浅橋）が駐機場のエプロンに伸び、その先端にサテライトとボーディングブリッジがついているその側面写真の一部です。塔乗橋は上下左右に首を振り前後進もし、塔乗待合室より周囲につき出た8本のそれは、まるで巨大な吸盤から生えた触手の様であり、先端は直径60メートルの吸盤となり、むらがるジャンボ機の乗降口へ32本の触手を吸い寄せ年間540万人の客を構内に送り迎える事でしょう。

航空貨物の処理は成田で貨物ターミナル、船橋の原木中山でTACT(Tokyo Air cargo City Terminal)と二箇所に分けて倉庫が新設され、緊急貨物と機用品、保税運送貨物、個人用を除き、原木中山で混載貨物を含む航空貨物の通関受渡しが行われる模様です。

大きいばかりで冷たく何の変哲もない未開港の新東京国際空港が、これ迄と、これからの生ずるかずかずの諸問題を考えつつ、再び秋の下総台地を後にしました

当日の参加者は窪田輝蔵氏（紀伊國屋）長谷川英子さん（国際書房）梶谷節子さん（丸善）でした。

（丸善 大倉宏之記）



Hachette 訪 問 記

10月5日のパリは後に Mr. Camblong 氏が“あなた方は非常にラッキーだ”といってくれた程、からっと晴れ上がった上天気で、我々の飛行機の窓から眼下に見渡せるあこがれのパリは我々一行をわくわくさせるに充分であった。「翼よ、あれがパリの……」みたいな思いで、もし雨でも降っていたら我々のパリの第一印象も大分変わったものとなったであろうと思われた。予定どおり正午を少し廻った時刻に St. Lazare のホテル Terminus に到着すると、以前日本にこられたことのある極東担当の若い Mr. Hamon 氏と、海外の大学関係を受け持っている Mr. Camblong 氏がすでに我々を待っておられた。おふたりともフランス人の中でも小柄と思われる方だが、さすがおしゃれの本場だけあって個性的な粋ないでたちで、フランス人にはめずらしい流暢な英語で我々を気さくに迎えてくれた。ヒゲを蓄えた Hamon 氏は30前、俳優のシャルル・ヴェネルに似た Camblong 氏は50才前後のお年と思われる。運よく？昼食時だったため Hachette 訪問を予定していた我々7名（東光堂石内社長、紀伊國屋書店相良氏、嶋田洋書の嶋田社長、極東書店の伊藤氏、イエーナ書店の竹内、有沢氏と私）は、ホテルの近くの Reine Pedauque という一流と思われるレストランに招待されることになり、我々としてはロンドンの料理が薄味でどうも口に合わないという思いをしていただけに美食で名だたるフランスの料理が味えるということで我々は大いに胸をはずませた。たっぷり時間をかけたそこでのフルコースは全く期待したとおりで、またその量が大変なもので小柄なフランス人の健啖ぶりに驚いたりもした。食事をしながら Hamon 氏は Hachette の国際（輸出）部門で扱う量はフランスの書籍の全輸出量の66%を占めること、今年前半の日本への輸出実績は70% up の伸び率を示したことなどを話してくれたが、後の方の話はどう考えても信じられない数字であると、相良さんはじめ皆で申し上げたが、かなり自信たっぷりのご様子で、同氏にとってみればご自分の担当部門の成績であるため、満足気な面持ちだった。日本人の悪い癖で余りのご馳走だったので相手のふところ具合が気になる、ちらっと見えてしまった勘定書の金額を知って仰天、ところが後でフランスのハンドライティ



ングの invoice なんかによく見受ける少数点以下の 0.0 がついていたのであるとわかって大笑いした一幕もあった。食事のあと、今年6月にパリの中心地よりやや離れた Vanves に新築された、まだペンキのにおいが残っている Hachette の新ビルを訪れた。一階にある発送部門から見せていただいたが、我々がロンドンで訪問したペンギン社と同じくベルト・コンペアを使っていて、映画などでよく見る鼻歌まじりの楽しげな仕事場に見えた。カメラを向けるとおどけたしぐさなどして彼等特有の陽気さで、ほとんど皆カメラを持って所構わず撮りまくっていた我々一行は彼等には典型的なジャポネの団に見えたかもしれない。このあとカードの完備した調査資料室、発注のためのタイピスト・ルーム、担当地域別に別れた部長室、モダンな社員食堂などを次々と案内していただいてから雑誌部長の Mr. Citrine 氏、古本部（地下の一室でまだ整備段階だった）の方（氏名不詳）にもお会いした。写真はそのときのものである。最後に相良さんから皆を代表して挨拶せよとの仰せ付けで、冷汗たらたら、しどろもどろの挨拶で全く閉口しました。我々がいとま乞いをするときは丁度退社時間で、帰宅を急ぐパリジェンヌを横目で見ながら Hamon 氏に別れを告げ、Camblong 氏の愛車アルファ・ロメオでメトロの入口まで送ってもらって別れを惜んだ。10月初旬のパリはまだそんなに寒くなく、その日我々が地下鉄の階段を降りるときにはきれいな夕焼が見られて、楽しい一日だったという感慨がおこるのを禁じ得なかった。

（国際書房仕入部 志保沢 賢）

欧文「日本関係文献目録」 その3

八 木 佐 吉

前二回にわたって紹介解題した Pagès, Wenckstern, Nachod, Praesent と Haenisch 及び Cordier 達の「日本書誌」はいわば総括総合的の欧文日本関係文献目録である。

これらの網羅式の書目のほかに、それぞれに特長をもっている目録が可成りたくさん刊行されている。これらは特殊項目に限ったり、時代区分をしたり、ロシア語文献だけを収録したり、また地域を限定したものなど多様に編成されていて、各々がそれぞれの使い方によって充分にその特色が活かされる書目である。

また、あるコレクションやある図書館の蔵書目録等も各々特徴をもっていること言うまでもない。いずれにしてもこれらを利用参照するのには、出来得れば各書の内容の一般と特色を心得ていることであろう。これは何れの参考書にも共通の一般基本態度である。要はそれぞれを利用して見る こと によって、ある程度の会得がなされると思う。

ともかく以下一応それら特殊の「欧文日本関係文献目録」で、筆者の管見に入った公刊書の主な書名・編者・刊行年その他を列挙してみよう。各々の解題は必要と考えたものを記述することとする。

- 1: Mezhev, Vladimir I. - Bibliografiia Azii; Ukazatel' knig i statei ob Azii an ruskom iazyke i obnekh tol'ko knig na inostrannykh iazykakh, kasaiushchikhsia otnoshenii Rossii k Aziatskim gosudarstvam. 1891-1894. St. Peterburg. 3 vols.
- 2: Matveev, Z. N. & A. D. Popov. - Bibliografiia Iaponii. Pod Redakchiei E. G. Spalvina. Pts. 1 & 2. 1923, Vladivostok. 117, 13 p.
- 3: Bibliografiia Iaponii; Literatura, Izdannaia v Rossii s 1734 po 1917 g. Redakchiia I. L. Kurent. 1965. Izdatel'stvo "Nauka" Moskva. (Academiia Nauk SSSR. Institute Narodov-Azii, Ministerstvo Kul'turi SSSR.) 378 p.
- 4: Vlasov, V. A. & Others. - Bibliografiia Iaponii; literatura, izdannaia v Sovetskom Soiuze na ruskom iazyke s 1917 po 1958 g. 1960, Moskva, Izd.-vo Vostochnoi

Literatury. 327 p.

- 5: Iaponiia: Sbornik statei i bibliografiia knig, zhurnalnykh i gazetnykh statei po Iaponii na ruskom iazyke s nachala Iaponskoi interventsii v Manchzhurii do 15 dek. 1933. Pod red. E. Zhukova i A. Rozena. 1934, Moskva. 415 p.

1 から 5 はロシア語の書誌である。

1: メヂョフ編アジア文献書目。

帝政時代十九世紀末の編纂でシベリアを除いた——シベリア書誌は別にある——アジア全般に關してのロシア文を主として若干の他の欧文書籍を含んでいる書目。1890年ごろ迄の書物約15,000タイトルを収録して「日本」の部は第一巻に入っている。索引がないので使い難い。日本にのみ限っていないので、ここにとりあげるのは如何かと思ったが数少ないロシア書誌の中の重要な一つであるため敢えて挙げておいた。メヂョフは当代ロシアというよりは全ヨーロッパに著聞した大書誌学者である。その内でもアジア書誌とシベリア書誌は尤なるものといえる。

2: マトヴェーフおよびポポフ共編日本書目、ウラジオストック極東大学刊。この目録も貴重な参考書である。流布も少ないが、近年リプリントがどこかで出版されたようにも思うが、今は調べている暇がない。編輯者スパルインは日本にも来ていた人。ロシア人向きの日本語教科書もハルピン辺りで出版している。その他「横目でみた日本」という大正の頃のおわが国の世相をたくみにとらえた隨筆もある。

3: は最近の出版であるにかかわらず大概の参考文献案内にも洩れている書誌である。②よりも纏っているものである。しかし併用して一層の効果を發揮する参考書誌。ソ連文化省アジア民族研究所の仕事になるもの。1734年から1917年革命に至る間の日本関係ロシア語文献約7,900タイトルを収めている。

4: は3に続く書目である。1917年以来1958年に至るソ連邦内のロシア語出版物に限ってある。主としてレニン図書館蔵の日本関係文献資料を収めている。雑誌論文も含んで約6,250タイトル。

5: は日本が満州に侵入以来のロシア語文献書目で単行本、雑誌論文、新聞記事をも収録している。

ほれぐすりと催淫剤

白石昌美

ほれぐすりは PHILTRE で催淫剤は APHRODISIAC と英語で書くが共にギリシャの愛と美の女神と王女の物語が語源となっている。なお PHILTRE の語幹はギリシャ語で誘引するという言葉から発生し、最近国際的に学術語として定められた「生物誘引物質」 PHEROMONE の主要な意味として近代科学界で活用されている。

この PHILTRE と APHRODISIAC という言葉はムード的な存在と考えている文学者、作家、随筆家が多いため時に混同視され、また古い時代の初歩的な辞書などでは同意語としているものが多く、一般にお話の中に出て来る非現実的な薬剤とされている。

このような誤解は、自然科学分野の勉強をしている人にも多く、中には頭から否定している学者も多く、このため色々な珍説が起こる。昭和26年頃ベストセラーズとなった医学博士安田徳太郎著「人間の歴史」から転載された「においと南方人」という文が塩野香料商報 125 号 (P R 誌) に次のように紹介された。

「南方では一般に、ほれ薬をグナグナ (GOENA-GOENA) と呼んでいる。つまり若い男は娘からほれ薬をかがされたり、のまされたりしてすっかりグナグナになって、もう帰るのがいやになり、つい居っづけになったらしい、日本では、もとのほれ薬の意味が忘れられて、その結果としてのグナグナという言葉が残ったのは愉快である」

これに対してジャワ島に戦前居られた平田正という人が、ヘンドリック・ド・ルウー著「蘭印探訪記」や阿部知二著「火の島」の記事を引用して「グナ・グナ異説」という批判文を同誌 126 号に書かれたのが原因で両氏と同 P R 誌の編集者の間で議論があったらしく、昭和45年になって昭和29年ジャワ人医師マホメドアデン氏の「グナグナの分析」という報告書を私が訳した文を参照してジャガタラ古文書なる一文を平田正氏が各方面に配布したため、グナグナに関する現実の話題にまた追い回される結果となった。

安田氏は「南方では一般に、ほれ薬をグナグナ (Goena-Goena) と呼んでいる」と片付けられているし、平田氏のように多年ジャワに住み現地語に親しんだ人がグナグナ即ほれ薬と断定しているがグナグナという言葉はマレー語でインドネシアとマレーシア、シンガポールなどマレー語を基本語としている国々でしかわからない。グナ (Guna) は英語の USEFUL に当りグナグナ (Guna-Guna) は強調した表現であり、また PHILTRE (PHILTER と書く) は MINJAK (OBAT) SENJONJONG とインドネシア語では表現されている。

Obat Guna-Guna は非常に重要なくすりという意味が強く、これが日本語のぐなぐなになったというのは間違いだと思われる、また Guna-Guna の第2の意味はつかれる (狐につかれたという時のつかれる) という意味があり、これが呪^{のろい}をかけられるという意味で用いられている場合に及んでいる。

この「グナ・グナの分析」という訳文も現実の存在としてのほれぐすりや催淫薬の実証に目的があるわけで、ほれぐすりは人間での PHEROMONES (誘引ホルモン) の探究に通じ催淫剤は人間での老化防止にまで進み得る可能性がある。

これらのものを食品研究家なる私が探究している理由の中には、消費者に好かれる魅力ある食品の本質、食欲の増進、抑制 (食糧問題上には食欲と性欲の安全なる調整方法という考え方も含まれる) などの本質と方法の研究が含まれているからで、研究結果から見るとやはり「火のない所に煙が立たない」ということで、何も効果のない物質からムードだけが生まれるというような事は素朴な時代には発生しなかったといえるようである。

勿論多くの草根木皮などの全てに実効があるとはいえず、また人体に害になるものも含まれている例もあるが、古来食用に供されている植物中に有効成分や有効成分の前駆物質 (酵素分解などで有効成分をつくるもの) が多く検出され、これを抽出濃縮し調合することで有効な PHILTRE や APHRODISIAC を現実の世界で活用することが出来るので愉快である。更にほとんどの場合、完全に精製しないと原植物から来る妙なる香気、風味が残るので一種の調味料ともなり、香味料ともなると共に慣用上のムードづくりをも助けてくれる材料ともなっており有効に働いてくれる。

目下の所、これらの材料は量産して、それ自体を市販出来る段階にはないが、食品加工工程でこれらの材料を活用し大衆に好まれる量販用の商品を製造するのに応用され出している。これは広告という多少誇大になる表現とムードで売る場合より良質な愛好者を得られることと広告費を大幅に節約出来る点で有利である。また地方の名物銘産品を育てたり、レストランやスナック店で独特な料理や酒^{さかな}の育をつくらせ顧客を増すなどで応用し成果をあげている。

勿論 PHILTRE と APHRODISIAC は別のもので、前者が誘引物質で香料や香味料のように適当の距離を縮めるのに効果があるものであるのに後者は体内に入って効果をあげるものが多い。但しある種の香料のように嗅覚神経を刺激して性神経を共振するものもあるし、催淫紙など外部からの刺激によるものも例外として含まれる。

現在このような成分を含む植物や植物部分の変化

したものは150種ほど判っているが、中には身近にあるものもある。例えばバニラ豆の抽出液は両者の成分を含んでおり、サルビアの葉は後者を含む。また園芸家が「裸の貴婦人」と呼ぶイヌサフランの球根は eau d'Husson と呼ぶ前者の効果のある水薬を

つくるので有名であり、調味料で知られる Water-CRESS も後者の成分を含む。オランダイチゴは強壯効果で知られているが若い実には催淫的效果があるとされている。

(技術士(農業部門)、食品衛生管理士)

BOOK REVIEW No. 10

Maxfield Parrish: The Early Years: 1893-1930

Commentary by Paul W. Skeeters (NASH)

11×14インチ、356ページ \$59.95 (\$50.00 until 12/31/73)

Maxfield Parrish

by Coy Ludwig (Watson Guptill)

9×12インチ、224ページ \$25.00

今年の秋、California の NASH と Ohio の Watson Guptill から二十世紀初頭に活躍した米国の Illustrator, Maxfield Parrish の本が次々と出版された。Maxfield Parrish は所謂 illustration の黄金時代と言はれた当時、Life, Harper's, Collier's, Century, Scribner's などの雑誌の表紙をかいて特に著名であり、また Hawthorne の Wonder Book や Edith Wharton の Italian Garden の illustration などをかいている。エジソン・マツダの広告やカレンダーに発表された彼の絵は、独得の光線の取扱、微妙な色調、デテールに富むバック等で当時非常に良く知られていた。

暫く前に Sat. Eve. Post の表紙画家 Norman Rockwell の本が H. N. Abrams と Watson Guptill から同時期に出版されたが Maxfield Parrish の本の出版もこの線をたどる米国のノスタルジアのリバイバルの一環であり、Norman Rockwell の本の出版以前に、やはり米国の画家 Andrew Weyth の本が出ている。米国の出版界は自国の画家達をこの様に次々と紹介してヨーロッパの美術の主流に対抗して自国民に自国の画家の意識を植えつけようとしているのか、或は単に Andrew Weyth の本の出版の成功に刺激された商業意識によるノスタルジアのリバイバルの出版か、そこ迄は詮索すまい。

たまたまこの二点の本が、NASH 版は大日本印刷で、Watson Guptill 版が凸版印刷で制作されている。Norman Rockwell の二点の本は両方とも凸版印刷で制作された様であるが、この度は日本の二大印刷会社の競争というかたちになった様だ。米国の美術書が日本で印刷される傾向は暫く前からあったが、最近特にその傾向が強くなった様である、これは日本の印刷技術の向上にもよるが、米国の印刷業界が膨大な年間の出版点数を自国で消化しきれなくなっていることにもよる。制作コストは日本の方がいくらか割安であろうが、出来上った本を米国に輸送するコスト、その他を考えると、日本で本を制作する理由のその比重はそれ程大きくはなかろう。

さて、この二点の本を Parrish の作風の研究書として眺めるのも一つの見方であり、また印刷技術上の問題から見て眺めるのも面白かろう。両印刷会社は reproduction に使用した元の絵——大部分は Parrish のかいた原画ではなく、印刷された当時の雑誌の表紙や本の illustration 等から複写されたものと見受けられるが、その使用された元の絵——それ自体今では希少価値があるそうだが——の保存状態、その他の理由から、同じ絵でも二つの本に発表された絵が色調が大変違っているのがあり、印刷されたものから複写されたための粒子の荒れ、元の絵のしみ、傷などのあるのが見受けられ、それはそれとしてまた面白い。本の制作に使用した元の絵の違いという点を考え、ここで二つの絵の印刷上の甲乙をつけるのは妥当ではなかろう。

Parrish の絵はアール・ヌーボーの illustration から現代へ移行する時点の絵として見て、この二冊の本は一つの資料的なものとなろう。

ニュース

☆ 英国 Associated Book Publishers Ltd. の Group Marketing Director, Mr. Michal Turner 11月上旬来日。

11月9日に、British Councilにおいて、Turner 氏のために盛大なレセプションが開催された。

☆ 英国 Penguin Books Ltd. の Overseas Sales & Marketing 担当の Mr. John A. Allen 11月中旬来日。

☆ 米国 East-West Export Books の Sales Manager, Mr. Norman J. Wright 11月下旬来日。

☆ 米国 Random House, Inc. の International Sales Manager, Mr. John Beauchamp 11月中旬来日。

☆ 米国 Open Court Publishing Co., の Director, Mr. Edward H. Carus, Jr. 11月中旬来日。

☆ 米国 Addison-Wesley 社の Mr. Nak Young Choung 11月来日。

通関統計

外国貿易概況（大蔵省関税局編、日本関税協会発行）1973年8月号所載。

書籍、新聞、雑誌の輸入額。

昭和48年8月 \$5,785,000 1月以降累計 \$44,643,000

昭和47年8月 \$6,229,000 \$40,493,000

（註）此の統計は、C I F 価格で10万円以下の少額貨物は含まれない。

新入会員のお知らせ

今回下記のかたが会員として入会されましたので、お手許の会員名簿にご記入願います。

準会員

㈱ 大阪洋書

代表者 川久保清志氏

〒530 大阪市北区万才町38 城野ビル

☎ (06)-312-3431

賛助会員

O E C D 出版物センター

代表者 Mr. John R. Barnett

〒107 東京都港区赤坂2-3-4 赤坂パークビル

☎ (03)-586-2016/8

総代理店ご案内

次の通り日本総代理店の案内がございました。お手許の Agent List にご記入願います。

㈱ 丸 善 ☎ 272-7211

Einsner, G. - Biomicroscopy of the Peripheral Fundus: An atlas and textbook. Approx. 195 p. with 121 figures. Drawings by Willy Hess.

(Springer Verlag) ca ¥17,920

Ansell, G. B., R. M. C. Dawson and J. N. Hawthorne (eds.) - Form and Function of Phospholipids. B. B. A. Library Vol. 3.

Completely revised and expanded 2nd ed. '73.

(Elsevier) ca ¥14,950

㈱ 南 江 堂 ☎ 811-7234

Grune & Stratton, New York

The Acute Abdomen edited by B. Felson 1973

in prep.

Advances in Electrocardiography edited by

R. C. Schlant & J. W. Hurst 1972 ¥7,920

Congenital Malformations of the Heart

by D. A. Goor 1973 ca. ¥8,000

Surgical Treatment of Head and Neck Tumors

by J. F. Barbosa 1973 ca. ¥8,800

Little, Brown & Co., Boston

Current Practice of Biliary Surgery

by G. A. Kune 1972 ¥5,600

Reoperative Gastrointestinal Surgery

by T. T. White 1973 ¥8,000

William Heinemann Medical Book, London

Clinical Heart Disease by S. Oram 1971 ¥10,560

Crohn's Disease by J. Kyle 1972 ¥2,640

Extrasystoles and Allied Arrhythmias, 2nd ed.

by D. Scherf 1973 ¥14,080

The Metabolic Basis of Surgical Care

by W. F. Walker 1971 ¥2,640

Munksgaard, Copenhagen

The Acid Base Status of the Medicine

by Siggaard 1973 in prep.

Peptic Ulcer edited by C. J. Pfeiffer 1971 ¥12,330

Special Tumors of Ovary and Testis

by G. Teilum 1971 ¥17,550

Elsevier, Amsterdam

Ciba Foundations Symposium 13: Hemopoietic

Stem cells 1973 ¥5,280

Dysraphic States by W. J. Gardner 1972 ¥8,840

Springer-Verlag, Berlin

Advances in Neurosurgery, Vol. 1. edited by

K. Schürmann 1973 in prep.

㈱ ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社

☎ 262-5278

Twayne Publishers, Inc. (G. K. Hall & Co.)

Collectors Editions Ltd. (Van Nostrand

Reinhold Co.)

THE NEW AMERICAN STATE PAPERS 1789-1900

General Editor: THOMAS C. COCHRAN
President of the American Historical Association

PART 1 : 1789—1860

アメリカ史の研究に政府文書は第一級の原史料とされながら、その量があまりにも膨大な上、系統的な整理と正確な索引づくりがなされていなかったため、それらを使いこなしての研究はきわめて困難でした。以前にも政府文書の集成刊行はありましたが、収録範囲や文書校訂の点で残念ながら不十分なものでした。

このたびのリプリント新企画は、1789年から1900年までの連邦政府文書を11領域に分け、完璧かつ系統的に再編する偉業として期待されています。アメリカ社会経済史を中心にするこれらの基本史料は、いずれも国立公文書館所蔵の印刷文献およびマニュスクリプト類から採録されました。領域別セットは文書をさらに細分して年代順に配列され、その領域の専門家による序説が付されています。

下記11セットからなるこのシリーズは、長年にわたる学者および図書館司書の共同努力と専門家の助言による成果であり、将来ともアメリカ史研究の基本資料として備えられましょう。

Manufactures	9 volumes	¥146,000
Indian Affairs	13 volumes	¥216,000
Exploration	15 volumes	¥224,000
Transportation	7 volumes	¥142,000
Social Policy	5 volumes	¥99,600
Commerce	47 volumes	¥916,000
Labor and Slavery	7 volumes	¥133,600
Science and Technology	14 volumes	¥260,000
Agriculture	19 volumes	¥380,000
Public Finance	32 volumes	¥580,000
Public Lands	8 volumes	¥148,800

1973年12月完結 第二部(1861—1900)刊行準備中

ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社

東京都千代田区麹町4-1 志村ビル 電話(03)262-5278(代)

昭和48年12月 通巻第80号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重
 ☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル302号室 ☎ 271-6901
 ☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル ☎ 371-5329